



Twitter



YouTube

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 268

2024

3.13

「語り合おう！進めよう！わたしたちのカリキュラム・マネジメント」

3月1日に文部科学省主催で公開シンポジウム「語り合おう！進めよう！わたしたちのカリキュラム・マネジメント」が開催されました。

文部科学省では、2019年度（令和元年度）から2022年度（令和4年度）にかけて、取り組んできた、「これからの時代に求められる資質・能力を育てるためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」のまとめとして、「語り合おう！進めよう！わたしたちのカリキュラム・マネジメント～カリキュラム・マネジメントの手引き活用ガイド～」を作成しました。

その「活用ガイド」を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図るため、今回のシンポジウムを開催されました。各校でのカリキュラム・マネジメントに向け、また、市民の方も学校で今どんなことが始まっているのかを知るうえで「語り合おう！進めよう！わたしたちのカリキュラム・マネジメント～カリキュラム・マネジメントの手引き活用ガイド～」を活用いただけたらと思います。※https://www.mext.go.jp/content/20240208-mxt_kouhou1-000033463_02.pdf より

松が丘小学校&土小学校研究交流会感想第3弾

松が丘小学校より、当日交流しながら感じられた感想が届きましたので紹介します。

先生方は地域とつながった学びのカリキュラム・デザインに取り組む上での共通点や取り組んでいるからこそわかり合える悩み等が交流され、互いの刺激になったのではと感じました。学校をこえた交流が特別なことではなく、オンライン等になれることによって交流が日常になっていくのではと思います。

【交流方法】

- ・ Webex の音声にノイズが入ったり、タイムラグが発生したりと交流ツールとして、使いづらかった。
- ・ Zoom と使い方が似ているので、使いこなすことで、よりよい交流につなげたい。
- ・ 1年間の取り組みを5分間でプレゼンするのは、やはり不可能。どうすればお互いの実践を効率よく発表できるのかを考え、対話の時間を確保していきたい。

【交流内容】

- ・ お互いの実践が似ていることがよく分かった。
- ・ コミスクを推進したり、地域と交流したりすることで、同じような課題に直面することが分かった。例えば、①対象となる地域の方の高齢化とその方の次の方の人材探し②教科書にない部分（場面）をつくる上での計画時間などの捻出。⇒カリキュラム・マネジメントが必須。

- ・持続可能な実践にしていくためには、学習計画の効率的かつ子どもが主役となる臨機応変な運用が必要。

【土小の実践を聞いて】

- ・PTA 発信で安全マップを作っているのがすごい。
- ・実際に、車の台数を数えに行ったり、その際の信号の長さを計測したりすることで、安全マップをつくる活動がオーセンティック。
- ・土小校内にある「昔の道具や資料」を他校からも見に来るところがすごいし、校内にあるもので、地域とつながる試みを参考にしたい。
- ・松が丘では2年生で育てた野菜を売っているが、土小では5年生が地元の農家とコラボして農作物を売っているところが、学年の差異はあるが、共通点でもある。
- ・地域とアポを取ることを子どもが職員室の電話を使って行っているところがすごい。
- ・2年生がiムービーを使って地域のCMを作り、事業所に持ち込むところがオーセンティック。

今回はお互いの取組を報告し合う中での交流で、互いの取組を知る段階での交流だったのかもしれない。こうした段階を通ることによって、ベクトルが同じ方向だけにその本質的な部分の対話がこれから始まっていくのではと思います。

新しい学校 (Pen 4月号より)



“大阪の公立高校の定員割れ”のニュースが流れていました。高校の無償化の影響もあると思いますが、学び方の多様性等ということも影響してきているのではと感じました。そんな時ネットで“新しい学校 (Pen 4月号)”が目にとまり、思わずポチってしまいました。「子どもたちの未来のために、“学校”が進化しています」と表紙に書かれていますが、こんな学校があるんだと知っておくことも大切なんだろうなと思います。

そして、「新しい学校に必要な5つのキーワード」として次のことがあげられています。

① Innovator (イノベーターの育成)

いままでの学校にない環境づくりで、未来のイノベーターを育てる！

② Inclusive (インクルーシブな発想)

他者との違いを認め、多様性に気づくことで、学校での居場所を見つけ、やる気に火をつける

③ Autonomous (自律した学び)

自ら学び続けるスキルを磨いて、変化の激しい時代を生き延びる

④ Locality(地域との接続)

地域の環境は身近な教材、垣根を超えた体験で「深い学びを」実現する

⑤ Sustainability (サステナブルな思考)

自然とのつながりを感じ共生を前提とした、新時代の発想を育む

参照) 新しい学校 (Pen 4月号)

この5つのキーワードは特別な学校だけのことでなく、どの学校にも求められることではと思います。こうしたことをベースに学校づくりの対話を初めてみるのはいかがでしょうか。

(文責：北本)